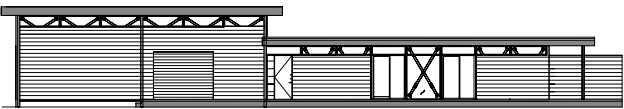
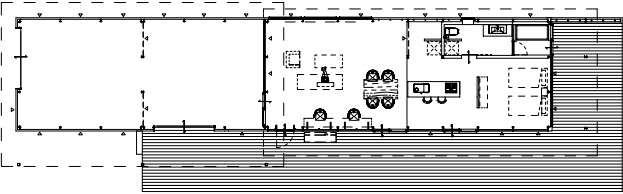


Text/Atsushi TAMADA



FLOOR PLAN

いたってシンプルな建築プラン。実はこの平面図で最も大事な部分は、家と湖の接点部分。人為と自然の境界領域。庭でいえば縁側の部分。そのバッファゾーンのわきまが“日本人のこころ”ともいべきものなのかもしれませんね。



日本最大の湖にして、世界で3番目に古い地歴を持つ古代湖の琵琶湖。その誕生は400万年前だそうです。行政の中心、関西に近いことから古代よりその美しさは様々な詩歌に詠われてきました。古代の都との程よい距離という地理的要因がこの湖が古の人々に愛された要因だと思えます。

剣道には「一足一刀の間」という言葉があります。一歩踏み込んで初めて攻撃が可能な中間距離。竹刀の先が触れ合うくらいの距離ですが、琵琶湖と奈良や京都の都の距離は、古代でも中世でもこの「一足一刀の間」のような程よい距離感ということが言えるでしょう。人間のせわしない生活を自然の側から見つめる。その相対化を可能にするのが適度な距離感です。鉄道や自動車が発達し



大きな庇と直線的なフォルムが特徴的なミッドセンチュリースタイルの外観。余計な意匠性を排除したその素直な外観が自然に溶け込むのです。人為と自然の境界線上の建築。この両立がコンセプトです。

What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウス×LDKの建築システムを構成するのが軽量鉄骨のLGSパネル。厚さ3mm～4mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅182cm、縦270cmの長方形に溶接して製作。デイトナハウスは、この基本の形を連結することで、住宅やガレージのみならず、別荘、店舗、賃貸住宅などの様々な建築を作っていく、全く新しい建築のカタチとなっています。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感と、力の伝達を受け持つ「ブレース」が織りなす、インダストリアルで飽きの来ない空間のテイストも持ち味となっています。

www.daytona-house.com

LDK inc. 代表 玉田敦士

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデューサーLDK inc.建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

た現代でもその間合いの感覚の大切さはあまり変わっていないのです。

今回のプランは、天然の芦原の中に美しく静かに佇む“平屋建築”をご紹介します。この家は人生において常に釣りアウトドアをこよなく愛し続けた81歳男性の終の棲家。今まで都会と格闘を続けてきて、21世紀の社会の変化を敏感に感じ取り、この湖畔の家を建築するに思い至ったのです。

建築プランは至ってシンプル。LDKと水回り。それと絵の趣味を持つ施主のアトリエ機能のスペースです。直線的な庇を持つミッドセンチュリースタイルの平屋。早朝の朝霞の中、かねてから研究していたポイントを狙うべく一人湖面にカヌーを漕ぎだす。この静寂のイメージ。カヌーから見ると葦原に浮かび上がるように見える直線的な建物のフォルム。つまりこの建築は常に湖からの視線を意識した建築なのです。その意味では自然と一体のランドスケープ建築ということができるといえます。

時は移って敗戦後の高度成長期、日本人は都市的な価値しか見向きもしない、近視眼的な狂乱の時代を過ごしました。残念なことにはその時代、琵琶湖は単なる家庭排水の放流場所としか認識されない不幸な時代でした。実に嘆かわしいことです。滋賀県住民の水質改善運動の長年の努力の結果、今では水質はかなり改善しています。そして21世紀も20年を経て、リモートワークが一般化するにつれて、改めて「一足一刀の間」的な都市との適度な距離感の価値が復活してきているのです。

古代の人と自然の良質な関係の記憶が蓄積した湖＝琵琶湖の美しさを再発見する。それは湖面に浮かべた船からの視線が前提なのです。今、そんな昔の人が大事にしてきた自然の側から人間を見る視点を取り戻されようとしています。この終の棲家計画にはその観点が生きているのです。



東の空がようやく白みかけた早朝に湖面に浮かべたカヌーから見たフラットハウスのフォルム。自然の側から客観的に人間生活を見る謙虚な目線。古の日本人がもっていたこの豊かな感覚を唯物効利（ゆいぶつこうり）一辺倒の20世紀失ってしまったのかもしれない。21世紀に我々はその視線を取り戻すことが重要だと考えます。



デイトナハウス×LDKオリジナルのLGS工法が作り出すミッドセンチュリーモダンの室内空間イメージ。室内の天井上げと室外の底の仕上げを同一にすることで、内外の連続性が生まれ自然に溶け込むようなイメージが想起します。その手法を“スルー”と呼んでいます。これは壁や床にも応用される典型的な手法。



自然の側からの目線を意識する
湖畔のボートハウスの先進性

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ



昔の人は都市生活を適度な距離で客観視する謙虚な目線を持っていました。
琵琶湖というシチュエーションがそれを思い出させてくれるのです。

Text/Atsushi TAMADA

黒のコブラをマスコットに、加古川市に大型GLBが初見参！

HARIMA BASE 1st

兵 兵庫県加古川市に誕生したGLB『HARIMA BASE 1st』。オーソドックスな標準形の大型GLBとしては関西初の募集になります。建物を含むチャコールグレーのガルバリウム外壁や全室標準のらせん階段『ダイナソーボーン』など、GLBの本領を安心して堪能できる仕様になっています。ご当地加古川市は高速道路のアク

セスも良く、淡路島や牛窓、あるいは城之崎など県内外のマリンスポットにも高速移動が可能なジャンクション的な立地になっており、ガレージアパートのライフスタイルが豊かなものになることは想像に難くないのです。ハードな建物の外観にフィットする、黒のシェルビー・コブラがこのガレージアパートのマスコット。ハードボイルドに元気な世界を表現しています。豊富な平置き駐車スペースも併設しているので、2台所有&バイクのオーナーには実にうれしい賃貸規格になっているのです。

雨上がりの夕景にたたずむブラックコブラとGLBの絶妙なカット。まさに出撃基地のイメージを彷彿。沈滞した世の中の空気に抗い、積極的かつ元気に生き抜くカンフル剤として入居を検討されてみてはいかがでしょうか？



Specialthanks/WHATNOT HARDWEAR STORE whatnot.jp



富 山空港から10分足らずの至近距離にこのほど大型GLB 2棟の威容で完成する『S.M.C.242』。全14室が十分な敷地内に横並びする威容は、まさにサンダーバード2号のワクワク感に満ちた世界。その上空をジェット旅客機が低空で旋回するのは、富山市のみならず、高岡や砺波、射水、金沢市などの周辺都市在住で、都市圏出張の多い方などにとっては、空港10分の距離は絶好のポジション。また、それは逆（大都市圏→富山）も然りです。愛車を格納しながら実用に供するサテライトオフィスとしてもイメージが広がりますね。全タイプ2.5×4.5パンのワイドタイプなのも見逃せません。主要道路に面しているが敷地に余裕もあり、クルマの取り回しもノンストレス。風光明媚な富山の地を拠点としながら広域に活躍する遊動的なライフスタイルを是非イメージしてみてください。

北陸に誕生した大型“エアポートGLB”その利用可能性は無敵大！

S.M.C.242



内部空間はGLB特有のインダストリアル感満点のダークトーンで、剥き出しの鉄骨骨組みが艶消し黒のグラデーションを構成しています。そこにヴィヴィッドカラーの差し色を注入するのは愛車やバイク、周辺グッズやアウトドアのギア類。デイトナハウス特有の世界観が北陸にも登場します。

FOR RENT
入居希望は
こちらより！

街を元気にするアクセントとしての都市型ガレージハウス

TM REALIZE MODEL HOUSE

大 阪の生野区にこの程完成したデイトナハウスの都市型3F建てのモデルハウス。この建物はデイトナハウス×LDK大阪中央（ディエムリアライズ）の事務所に隣接するモデルハウスになっています。大阪の微妙に古い町並みにもごく自然にフィットするデイトナハウスのインダストリアルデザインの順応性に、改めて感心。過度に派手ではなく、さりとして地味ではない。しっかりとその場所での存在を主張するのです。特に夜、内部照明を点灯した時のガラス面の存在感は特筆です。狭隘な路地に面した関西の街中特有の条件でも、部材がシステム化されているデイトナハウスなら施工が可能です。しかもしっかり個性を打ち出すことができるのです。是非、生野区開設されたこのモデルハウスを見学して実感してみてください。



大阪生野区の路地で秀逸な存在感を示すデイトナハウスの都市型モデルハウス。1階はガレージ空間とホビールーム、2階は吹き抜けを要した開放的なダイニングキッチンと水まわり、そしてその上にはロフトスペースといった構成になっています。住宅のみならず、店舗や事務所をイメージする空間としても内覧が可能です。

FOR RENT
内見希望は
こちらより！



“空間賃貸”の自由と創造性を鉄骨建築で表現したモーターコンプレックス3様態が博多に誕生！

平米数で規定され、使用業態をルールで縛られた従来型の賃貸建築の殻をやぶる画期的なデイトナハウス賃貸の新仕様が遂にオープン。もちろんクルマ好きご用達。これはGLBの発展形なのだ！



福 岡平野の東に位置する丘陵の斜面の地「金の隈」に、いよいよ『ARK BASE HAKATA』が満を持してオープンしました。それぞれ空間に特徴を持たせた3棟で構成されるこの施設は、従来のガレージ賃貸GLBの発展形と言える新しい形式です。従来のGLBもガレージ空間に対する多目的な空間利用の可能性を表現したものでしたが、ここではさらに一歩踏み出し、事務所や店舗などの商業空間としての利用に軸足を置いています。空間の解釈や使い方は、いわばユーザーの自由な発想にゆだねられています。「型にはまる」という従来の賃貸形式のタグを取り外し、目まぐるしく変化する時代に即応するための新しい“空間賃貸”を大胆に提示。移動の自由や機動性をガレージという多目的空間として取り入れる新時代の“モーターコンプレックス”とも表現できるかもしれません。戦後ニッポンの高度成長社会は、生活と商売（なりわい）を切り離す（サラリーマン優先）というバイアスが強く作用する社会構造でした。“趣味”という曖昧な概念もその中で幅を利かせました。しかし今再び、“職住一体”という言葉で表現されるライフスタイル。わかりやすく言えば「遊びも仕事、仕事も遊び」という世界を思い切って建築として表現したものだと言えるでしょう。

福岡空港や高速道路・主要幹線道路までの好アクセスを活かした、九州の新たな発信拠点。3つの建物に4つの広さ、タイプ、全11区画で構成しています。



ご当地「金の隈」は、弥生時代の遺跡で有名。この遺跡の出土物のゴホウラ貝で作った腕輪や装飾品は種子島やオーストラリアでも同様のものが出土しており、古代からこの地が情報交流の要所であった証。そして、今、新しいライフスタイル発信拠点が出来上がろうとしています。

FOR RENT
入居希望は
こちらより！

ARK BASE HAKATA

A棟 01号-02号

01号 | 374,000円(税込)
02号 | 385,000円(税込)
面積 | 115.58㎡(約35坪)

1F天井高はなんと約4.5m。カッコよく空間を使い倒す業態をイメージ。撮影スタジオ、ゴルフジム、バイク・クルマの整備場など、様々な想像が膨らむ空間となっています。



B棟 01号-03号

01号 | 193,820円(税込)
02号+03号 | 192,280円(税込)
面積 | 79.34㎡(約24坪)

2階にシャワーを備えておりARK BASE HAKATAの中で唯一事業用だけでなく住居やSOHO（住居兼事務所）としても利用可能。新しいイメージの職住一体を体現している賃貸様式なのです。



C棟 01号-03号

01号+02号 | 339,900円(税込)
03号 | 345,400円(税込)
面積 | 134.13㎡(約40.6坪)

最も専有面積（134㎡）が広いダイナミックな棟。豊富な鉄骨空間をフル活用することによる使い方は様々。ショールーム・店舗兼オフィス、ガレージ兼オフィスなど、ニーズに合わせてやすい空間。

